

UIFA JAPON D'AUJOURD'HUI

今日の話 阪神大震災について私の考えること・できること

■CONTENTS

TOPICS ・ドラトールUIFA会長よりニュース

・役員会の報告

・第6回海外交流の会

MESSAGE ・阪神大震災について私の考えること・できること

■ドラトールUIFA会長よりニュース

'94年12月 Paris発 UIFA JAPON全会員宛

新しい95年の年頭に当り会員の健康と幸福と繁栄を願い全世界の女性建築家のきずなを深め実りある会にしたいとのメッセージと共に、第11, 12回UIFA世界大会予定について以下のニュースを伝えてきました。

第11回UIFA世界大会 1996年

開催地 ハンガリー・ブタペスト 技術院会場

テーマ "The Renovation & Reconstruction of National Patrimony"

プログラム 会議、近郊視察、77ターコングレスター

予備登録 アンケート調査実施中

第12回UIFA世界大会 1998年

開催地 日本(場所、会場未定)

テーマ "The Harmony between Architecture and Environment"

これらの大会への多数の参加を呼びかけています。

■役員会の報告

第13回役員会 ('95年1月11日) 役員7名出席

'98年第12回UIFA世界大会の日本開催に向け、準備スケジュール、内容等について'95年10月までを第1段階準備期とし、担当役員を決めフィジブルな案を固める。

ドラトール 会長の要請で ロマ字表記の会員名簿作成。

第14回役員会 ('95年2月7日) 役員8名出席

東京女性財団の女性研究進捗状況の報告、今後の海外交流の会予定・内容について検討。阪神大震災については日高(西宮市)、武野(神戸市)両会員は幸い被害は少なく無事で、中原会長よりお見舞状を発送。

■第6回UIFA JAPON "海外交流の会"のお知らせ

「デジタルメディアの世界をさぐる」

日時: 1995年3月18日(土) 13:00~15:30

会場: デジタルハリウッド株式会社 (TEL.03-5256-7608)

千代田区神田淡路町2-3 淡路町東誠ビル 2階

講師: 杉山知之氏

プログラム: 講演 最新のデジタルメディアの使い方等の事例

見学 デジタルハリウッド株式会社(各部門)

質疑応答

参加費: 会員 500円、非会員 1,000円

■"次世代を担う若手 100人"に金鎮愛氏

先日、日韓交流の会に講師として参加された金鎮愛さんが"TIME" (94.12.5)の特集号「次世代を担う世界の若手100人」に載っていましたので、その記事を紹介いたします。

— どんよりとスモッグに覆われ、スローしている首都ソウルに比べれば、8kmほど南に位置するサンボンは軌跡のような場所だ。そこでは高層ビルと2階建ての住宅が谷間を扇状に美しくうめ、200,000戸もの住戸が山の景観を妨げることなく広がっている。金が36歳の時におこなったこのサンボンの計画は、ヒューマンスケールと都市のスケールでの機構が見事に融合しているのである。

国家レベルでの先行的な都市計画に携わるなど、彼女は決してちいさなスケールのことを考えているわけではないのだが、彼女は個人の生活レベルでのこまごまとしたことも忘れはしない。彼女が1978年にソウル国際大学を卒業してから最初に行った仕事のひとつは、— 実現しなかったのだが— ソウルの都市計画であった。彼女のデザイン事務所、ソウルフォーラムの次の企画はソウル市内の停滞地域である中央ヨンサム地域の再開発計画である。

彼女は言う"ソウルは最も劇的でやりがいのある土地です。ほんのちょっとした変化を与えるだけで、生活のための素晴らしい場所へと変わっていくのです。"

(翻訳 須崎稚奈)

会員からのメッセージ 阪神大震災について私の考えること・できること

1月17日激震が阪神地方を襲い、尊い命と家を奪い、多くの人が日常の何気ない生活を失った。戦後日本の経済優先、人命軽視のツケがこの被害をもたらしたのではないか。障害者も弱者も安心して暮らせる環境づくりを復興の第一歩としたい。(愛知県 阿部祥子)

非常時にルールにとらわれ判断が出来なかった指揮系の為に多大な人命を失ったことは最大のショック。普段から自分のフィルターを通して判断する訓練をし、設計も法規のみに頼らず本当に安全か否かを判断できるカンを早く身につけたい。(東京都 伊藤佐恵)

応急危険度判定調査で現地へ行った同僚の話ではテレビ報道以上の惨状の様子。3月半ばより3週間応急仮設住宅建設支援で赴く予定。少しでも早く快適な住まいを提供できるよう微力を尽くしたい。近隣関係やネットワークの大切さを感じる。(東京都 牛山美緒)

災害時における建築家或いは都市計画家の責任の重さをひしひしと感じている。個々の建物の耐震設計に注意を払うことはもちろん延焼防止のための適切な公園の配置等々、今後考えるべき課題をたくさん投げかけられた様な気がしている。(東京都 大高真紀子)

ハード面ばかりを主張しがちな建築家が以外に多く驚いている。救援の邪魔をするヤジウマ建築家が被災者の感情を逆撫でしたとも聞きました。建築家も心理学をマスターしてほしいと思う。人の心を思いやれない立派な作品は不要。(愛知県 大原志津江)

始めて大きな災害を間接的に受け、ライフラインの大切さを知ると同時に災害後の対応に一人では何もできない無力さをも痛感。建築に携わる女性間でのネットワークづくり(ボランティアとして何が出来るか)の必要性が、まずこれからの課題では。(東京都 沖田富美子)

何よりも驚くのは震災後の避難住民の劣悪な居住環境である。地震は天災だから防ぎようがない。しかし、その後の無策状況はこれが我国日本かと疑う事ばかりである。建築家としては公的機関にもっと積極的に参加する事を志したいと思う。(東京都 川崎衿子)

災害時一番の問題はトイレ。食事、給水の配給はあってもトイレは個人で待ったなし。特に集合住宅の場合のトイレ保全の確保が必要。排水系統の接続は震動に強いフレキシブルパイプで、排水のためにドラム缶一杯の水、これで3日耐えられる。(東京都 川島幸江)

何十秒の震動であれ程簡単に無残に崩壊したことにショックを受けました。設計という職業に就いていながら設計に対するやる気が失せました。今は今回の事も含め、建築ということに対して自分ができる事は何か、を模索中です。(福岡県 久保直子)

まるで戦後の焦土のような惨状に火を遮断する空地の必要性を痛感。これからの街づくりには人間側にたって水や緑の十分ある公園等の採用、避難路としても活用できる幅広い路の整備等を行い、快適に安全に安心できる生活空間を創出したい。(東京都 小池和子)

都市計画の専門家ら少し離れた立場で3月中旬に神戸へボランティアとして行く予定です。建築やまちづくりの分野に携わる女性として、今後中期的にどのような力になれるのかを現地で見たいと思います。(横浜市 古村伸子)

避難所、仮設住宅の用意のされ方が余りにも貧しく非文化的。地震の巣の上に高密度に住んでいることの自覚、命と心の豊さを理念としたハードソフトの国土づくりへの転換が求められている。住民参加のモデル都市の建設を期待したい。(東京都 小谷部育子)

取り合えず義援金やホームステイの受入れに協力。時間経過と共に判明する震災の大きさ、改めて地震帯上に生活していることを肝に銘ず。建築家として地盤調査、適切な構造、バリエーションある計画や現場管理の大切さを再認識。豊かさとはと自問。(横浜市 小渡佳代子)

建築士としては、建物の安全性が問われたことの重大さ、個人としては生きるものの意味や価値観について考え、思いを新たにしました。亡くなられた方々に心からご冥福をお祈りいたします。合掌。

(神奈川県 佐藤久美子)

阪神大震災では70年代以前に建てられた古いビルや経年の古い住宅に大きな被害が集中。20秒のわずかな時間が被災地の人々の運命を分けている。被害地を歩いてみて災害復興計画はゴネ得でなくゴネ損になる対策が必要ではないかと。(横浜市 白井正子)

在来工法による住宅の欠点が露呈され災害に強い住宅として陸屋根のプレハブ住宅が注目を集めている。時間の流れが分岐を迎えた今、守るべきは何か、何を諦めなければならないか、明らかにしなければいけない時が来ているのだと思います。(大阪府 須崎雅奈)

大震災での教訓は、地球環境共生の文明社会への警告の様です。建築への人間の傲慢さを捨て、人間の尺度と地球環境の真の姿を見つめ直す機会。今までの活動の総括として今夏、全国建築サミットを京都で開催の予定。衣食住の結合を。(東京都 田久保美重子)

できることは、集中化する都市を住居の面、特に女性の眼を通じた提言。UIFA会員の研究会で住居の重さを都市計画的に究明したい。教訓は従来より一層「安全を第一に設計する事」。今後の仕事では、住居内の物の量、収納家具の再考を。(東京都 田中美恵子)

震源地から離れた大阪でも一瞬にして朝の衝撃的揺れを体に覚えさせられ、発生時間近くには必ず目が覚める毎日です。プレハブ住宅は地震に強いと実証されたが、色々な面で社員の仕事に無理な負担を負う事となり、思い出したくない事柄です。(大阪市 谷口真知子)

現地視察により、建築物は個人の所有であると同時に社会全体のものであることを思い知らされた。今後、所有者、設計、施工の各立場で責任ある意識を持って建物を作ることで、地域全体の安全性、環境のレベルアップにつなげるべきである。(東京都 寺林成子)

阪神大震災の復興等については、今私が所属している日本住宅会議、都市住宅学会、建築学会を通してささやかですがお手伝いをするつもりです。しかし以上に、東京にてその防災対策を住民主体でどう進めるかを考えたいと思っています。(東京都 中島明子)

被災の皆様にご心からお見舞いを申し上げます。今日南伊ポンペイに行き、そして思ったことは都市計画の重要性。地下貯水槽をいかに作るかが突然の災害から1人でも多くの人を救う手だてになるとしみじみ思いました。元気を出してください。(埼玉県 中原暢子)

月を超える期間体育館に寝起きしなくてはならない避難所の環境、今の状況を改善できないか。私自身、今年の高熱を伴うインフルエンザから今脱して、あの中患者達を思う時、医療施設等の特設にもっと他の方策はないのかと考えている。(東京都 板東みさ子)

建築や街づくりが直接人命に結びついていることを今回実感したことはない。見かけの美しさだけでなく防災上の観点を軽視せず、今後も建築設計、街づくりにこの教訓を生かしたい。日頃のコミュニティづくりの大切さも改めて感じた。(東京都 東由美子)

■広報だより

阪神大震災から2ヶ月が過ぎました。NO.10 UIFA JAPON D'AUJOURD'HUI 今日の話題「阪神大震災について私の考えること・できること」に対して、会員の約半分の方々から原稿が寄せられました。様々にある考えること・できることから、これからの会員それぞれの立場での被災地の復興に・建築に・街づくりに、ここで得られた教訓を生かして欲しいと思います。会員多数の御協力ありがとうございました。

Union Internationale des Femmes Architectes Japon

UIFA JAPON 事務局

〒105 東京都港区芝公園3-1-8
芝公園アネックスビル(株)生活構造研究所内
TEL. 03-3459-0221

とても見えないはずの多くのことを大震災があからさまにした。人智の限界例—地震予知、耐震構造—。インフラストラクチャーやライフラインの脆さの上に立った街の姿。地球は生きている、我々も生きていることの原点に立ち返ろう。(東京都 平井美蔓)

日本では、何か災害がある度に建物への法規が変わり、分かってはいるけどと違法建築が残され、その場凌ぎのギリギリの設計がまかり通ることになる。再開発には、腰を据えた、その地域らしさを生かした都市計画への取組が必要である。(名古屋市 藤田淑子)

被災した知人からの便り—「寝室にはベッドより高い家具等は置かない、頭上の壁には何も掛けない、物入れは極力押入・加ゼット等の造付けにし、食器棚は低い木製で引違い戸がよい」—これらを頭に入れて設計に生かしたい。(東京都 船津貴子)

予防医学の大切さと同様、大地震の被害を肯定の上、被害を最小限に喰い止める予防建築学の必要性を痛感。自然の偉大さ、人間文明社会への痛烈な反省とその洗礼を受けた建築家や都市計画家は畏敬の念を持ち、人と自然が安全に共生すべきだ。(東京都 正宗量子)

今回の震災で一番の印象は「水がない」ということだ。“災害に強いまちづくり”を考えてみると、飲料水、初期消火水、生活雑水を確保するため都市内に修景用の水を増加させ、常時は潤いに、非常時にその水を活用する役割を持たせては。(東京都 増淵久乃)

色々模索しつつ、災害復興には義援金という方法を選択しました。又、建築設計においてデザイン志向になりがちな意匠設計の立場として、今後の耐震性を含めた建物総合管理という分野への取組みの必要性を痛感しております。(東京都 緑川浩子)

建設省展示コーナーで被災地の航空写真を見、家々が道に区切られた固まりで倒壊したり、焼けていることを実感した。関東大震災後向上した安全な建築への方法を、特に木造はより堅実にすべきだ。私の親戚は梁の下で息をひきとった。(東京都 宮坂雅子)

「関西には地震がないのに東京者は地震々と騒いでやりづらくて適わない」。当事務所では関西の仕事が多く、構造担当が現場でしばしば聞いた施工者の言葉が忘れられません。昔取った杵柄で、判定ボランティアに参加したく思っています。(東京都 宮崎玲子)

今度こそ住む人の立場にたった都市計画を！しかし避難所生活をしている2万人の人達への仮設住宅の提供だけでなく、仕事の間を失った人達への仮設の作業場も必要であろう。仮設のためのエリアを確保したマスタープラン作りが急がれる。(埼玉県 山田規矩子)

始めに小さなところから地道に積み上げていくまちづくりの意味がないのかと一瞬思ってしまった。ところが真野地区をはじめとして逆に地区別まちづくりの重要性が徐々にわかり、いよいよ市民主導のまちづくりにかंबろうと思った。(神奈川県 吉田洋子)

日本の耐震構造の神話が崩壊したとも見えますが、この壮大な実験に似た様相は様々な研究上の発見を生んでいます。またその後人は何を考え、何をしたのかも貴重な事実です。臨場感を失わないよう絶えず現場に行き分析研究しています。(東京都 吉田あこ)

組織としては既に支援に入っている。個人としては後方支援をしている。教訓としては参加型のまちづくりが非常時に力を発揮し、住民主体のまちづくりの大切さを再認識。住み手がまちづくりへの経験を持ち、「共に住む」意識を持つこと。(東京都 渡辺喜代美)